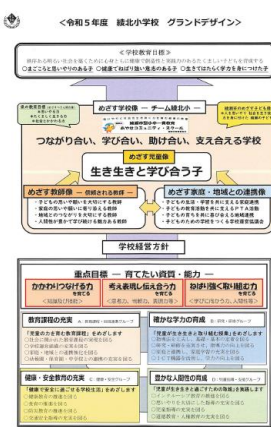


令和5年度 綾瀬市立綾北小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	秩序ある明るい社会を築くために、心身ともに健康で、創造性と実践力のあるたくましい子どもを育成する。 ○まごころと思いやりのある子 ○健康でねばり強い意志のある子 ○生きてはたらく学力を身につけた子	
学校経営方針 (ランドデザイン)		
今年度の重点目標	育てたい資質・能力 ○かかわりつなげる力を育てる ○考え表現し伝え合う力を育てる ○ねばり強く取り組む力を育てる	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「生きてはたらく学力を身につけた子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	「分かる」と楽しい」「新しいことに興味がある」「目標がある」と思っている児童は、学校でも家庭でも意欲的に学習に取り組んでいるようです。分かった」「できた」という達成感を味わわせ、自らの学びにつなげられるような授業づくりを今後も目指していきます。地域の方との連携をより図り、学びの場を広げているようにしていきます。また、家庭での学習の様子について保護者の方々とも懇談会等で話し合い、同じ方向性をもって学習に取り組めるようにしていきたいと考えています。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	8割を超える児童がめあてをもって頑張ったと肯定的に回答しています。練習してきたことを発表する機会をもつことで、児童にとって満足感や達成感を得ることができたと捉えています。また、「わが子は意欲的に取り組んでいる」と感じた保護者については7割を超え、昨年度より増えています。家庭でも行事の練習をする姿が見られたというご意見もいただき、児童を通して学校の様子が伝わっていると思われます。しかしながら、残りの2割弱の児童にも目を向け、全児童が満足感や達成感を得られるような行事・活動にするにはどこを改善すればよいか、今後も検討を重ねていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「まごころと思いやりのある子」を育てる指導を積極的にやっている。	8割の児童が「あいさつができ、友達と仲良くできた」と答えています。この結果は、前年比と概ね変わりませんが、保護者の「そう思う・ややそう思う」は昨年度より向上し、6割となりました。しかし、児童の捉えとは、ずれが生じています。引き続き、教職員自身が思いやりをもち、児童に寄り添い、友だち同士の関わり合いで日々必要な支援や助言を心掛け、あいさつの大切さや友だちと仲良くなる仕掛けづくりを、組織的に実践していきます。また、あいさつについては、地域の方々へも目下当たり前に取り組むことが、まごころと思いやりの第一歩と感じます。ご家庭でもあいさつについて声掛けしていただき、同じ方向性で子どもたちを育てていきたいと考えていますので、家庭教育からのバックアップのご協力をよろしくお願いいたします。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	学校は、どの状況においても、児童にとって安心して楽しく過ごせる場所でありたいと考えています。そのために、教職員が工夫を重ねて学級・学年間を中心によりよい人間関係づくりに取り組んできました。今年度、約8割の児童は満足しているという結果でした。よりよい学級集団づくりを基本として、学年・学校全体でさらにきめ細かい支援・多様な体制づくりを推進してまいります。そして、児童が相互に関わり合いができる機会や自分の力を発揮できる機会をさらに増やして社会性の基礎を育むよう取り組んでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	「努めている」と答えた保護者が4割を切りました。「分からない」と答えた方も2割を超えています。この結果は真摯に受け止めます。「あまり思わない・そう思わない」と感じた保護者の方は、是非、そのままにせず教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーへ早急にご相談いただきたいと思います。学校では、今後も学級の下よりよい人間関係づくりを基本に、児童が相談しやすい雰囲気作りを行い、早期発見に一層努めてまいります。道徳教育や人権教育など、心の教育の充実をさらに図ります。また、学校での取組に対してご理解・ご協力が得られるよう、保護者に向けて積極的に発信していきます。教職員は、研修を通して、自己の人権意識の向上といじめ防止への意識のさらなる向上に努めていきます。
6 保健管理	学校は「健康でねばり強い意志のある子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	今年度も、健康で安全な生活について、日々の生活や学習活動の実態に応じてその都度共通理解し、全校児童に対して指導を積み重ねてきました。これにより、児童の意識を継続的に高め、手洗いの励みや、早寝早起き、歯磨き、好き嫌いを食べること、適度な運動が大切であることを意識し、習慣化することができました。また、児童の健康を第一とし、休み明けの外出遊びに消極的な様子がみられる場面がありました。今後も引き続き計画的に指導を行う中で、体を動かして遊ぶことや運動の大切さをより実感できるような指導を工夫していきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	「安全」は学校にとって最重要課題の一つであり、施設の点検には全職員協力のもと、毎月細心の注意を払って実施しています。必要な修繕箇所や改善点を適切に挙げ、その都度校務作業員や教育委員会に修理・点検を依頼、順次対策を行っています。安全な教育については、年間を通して各学年児童の実態に応じて計画的に指導を行いました。今後も地域の安全対策ボランティア「見守り隊」の方や、PTA校外指導委員の方に協力していただき、事故、けがのない安全・安心な学校をめざしていきます。
8 支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	引き続き教職員で情報を共有し、児童の実態を把握して、児童理解に努めています。そして、一人ひとりのニーズに合った支援体制を充実させ、支援や相談を積極的に行っていきます。また、保護者の要望に応じて、専門機関の相談員なども連携を図っていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	学校教育目標を具現化するために、学校ランドデザインに掲げためざす児童像「生き生きと学び合う子」の育成に向けて「かかわりつなげる力・考え表現し伝え合う力・ねばり強く取り組む力」を各行事や教育活動を通して育成できるよう、各グループが担当の所掌の「計画・実践・評価・改善」を行い、運営組織の充実を図ります。今後もよりよい学校運営のために、担当総括教諭が中心となり、各グループが連携しながら、活発で効率的な運営が機能するよう努めていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための研究取組に力を入れている。	今まで積み重ねてきた校内研究の成果を生かしながら学校として育てたい資質・能力が育成できるように研究を進めています。今年度、教職員同士で学び合う場が増えたことで、研修内容の質が向上しました。今後も教職員全員が必要とする研修の場を設定していきたいと考えています。しかし、普段から必要な情報や知識を共有し、相談したりする時間の確保は課題として残ります。ゆとりをもち、互いに高められるような環境が作れるように努めていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	昨年度に引き続き、「そう思う・ややそう思う」と回答した保護者が約5割でした。この結果を真摯に受け止め、学級経営の検証や分析を行い、今後も児童の実態把握にさらに努めていく必要があると捉えています。教職員による情報交換や児童のスクールアンケートなどで、児童の実態や課題を細かく把握し、担任・学年、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーがチームで対応し、支援・指導を行い共通理解を図ります。さらに、児童一人ひとりの対話を大切に児童同士のコミュニケーションが円滑に進むような取組等も検討し実施していきます。また、「そう思わない・わからない」と答えている保護者のニーズを把握するため、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーの教育相談活用を促したいと考えています。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	学校からの便りでは「学校の取り組みが伝わっている」と回答した保護者が昨年度より増えました。今年度から行事予定を2か月分掲載していることも、予定が立てやすくなったという感想をいただきました。今後も、文書の配付だけでなく、ホームページや学校情報配信アプリ(C4・h)などを活用し、学校から必要な情報が速やかに保護者の手元へ届くように工夫していきます。また、コロナ禍により、地域の方や保護者の方を招いての活動を自粛していた期間が続きましたが、今後は、より地域・保護者と連携した取り組みを考え、発信していきたいと考えます。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 ・保護者の方の意識を高めること、協力し合える機会をアナウンスしていくことで、より地域・保護者・学校が連携ができるのではないかと。 ・地域ボランティアとして学校に関わる機会があったことで、子ども達を身近に感じることができてよかった。今後も地域と保護者へ教育活動の参加をアナウンスしていくとよい。 ・保護者として子ども達の学習の様子、理解度を把握していく必要がある。昔と今の学習への取り組み方、放課後の時間の過ごし方が違ってきているので、家庭学習については、家でどのように学習をするか、良いか分からない保護者も多いのではないかと。 ・児童の安全のために、地域のボランティアの方による登下校の見守りを今後も継続していただけたらと助かる。 ・コロナが落ち着き、給食後の歯磨きの代わりに、うがいなどを児童に勧めていくとよいのではないかと。 ・コロナ禍でできなかった指導が再開されたことは喜ばしい。全校が一斉に集まることができると行事や朝会などができるようになり、児童同士が関わる機会が増えた分、トラブルも多岐にわたるようになったが、教職員が日々、児童に向き合おうとしていることは評価できる。教職員の頑張りを、地域・保護者の側にも支えられるようにしていきたい。		